

編集後記



写真提供:中日本高速道路株式会社

新東名高速道路

2017年はドナルド・トランプ米国大統領の就任とその言動に世界が振り回された1年でした。保護主義強化、TPP離脱、パリ協定離脱等々、次は何が出てくるのか非常に気になりました。

経済動向について見ると、日本経済は回復基調に推移しているものの、経済のシステムは仮想通貨の拡大を含め、複雑化・多様化しているように感じています。

一方、社会的にはワークライフバランスの実現、生産性の向上、企業文化や風土の変革を目指した「働き方改革」が動き出しました。少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、育児や介護との両立、ニーズの多様化などへの対応が大きく進展するようになります。もう一つの着目すべき話題は「持続可能な社会の実現」に向けた動きです。持続可能な開発目標(SDGs)に沿って行動するためには、より質の高い科学技術の活用が必要になります。背景にある問題、要求を意識した対応が重要になると考えています。

技術の動向に目を向けると、ICT、IoT時代に突入したように感じます。新聞等では毎日のようにビックデータ・AI・5G・3D・AR・VR・画像認識・Robotics、そして自動走行等の話題が掲載されています。今後、これらは全ての業界を巻き込みながら拡大するような機運にあります。そして、これがIndustry4.0をより推進させる契機になるような気もします。まさしく経験したことがない時代に移行しつつあるように感じてなりません。また、これらが進展する段階では、未知の問題への対応が必要になると考えています。そのため、柔軟な対応、視点の捉え方、そして意識を高めることが重要であると考えています。

さて、編集活動に目を戻します。過去2年の特集テーマを振り返ると、64号が「火山」、65号が「活断層」でし

た。これらはその年に話題となった事象が特集テーマであり、火山は御嶽山の火山噴火、活断層は熊本地震でした。平成29年6月に開催した66号の第1回企画編集会議では、特集テーマは“何にするか”という議論からスタートしました。幾つかの特集テーマについて議論を進める中で、テーマの方向性として「安全安心」、「持続可能な社会づくり」、「社会インフラの運用・管理」といったキーワードに収斂され、最終的に特集テーマとして「メンテナンス」に決定しました。

論文の内容は、協会員に馴染みの深い土構造物とし、具体的には盛土構造、切土構造、河川堤防、トンネルを対象にしました。さらに議論が深まると、執筆依頼者や表紙のデザインまで一気に話が進みました。

その後は執筆者の先生方、および協会員各位のご協力もあり、概ね予定通りの編集活動で出版に至るとともに、読者の方々に興味深い内容をお届けできたのではないかと自負しております。

最後になりますが、ご多忙にもかかわらず寄稿いただきました執筆者の皆様、写真をご提供いただきました方々、日頃よりご指導いただいております国土交通省中部地方整備局の皆様、上部団体の全地連の皆様をはじめ、本機関誌発刊にご尽力をいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

今後も「土と岩」が皆様方からご愛読され続けますよう努力してまいりますので、ご指導、ご愛顧をお願い申し上げます。

編集委員会